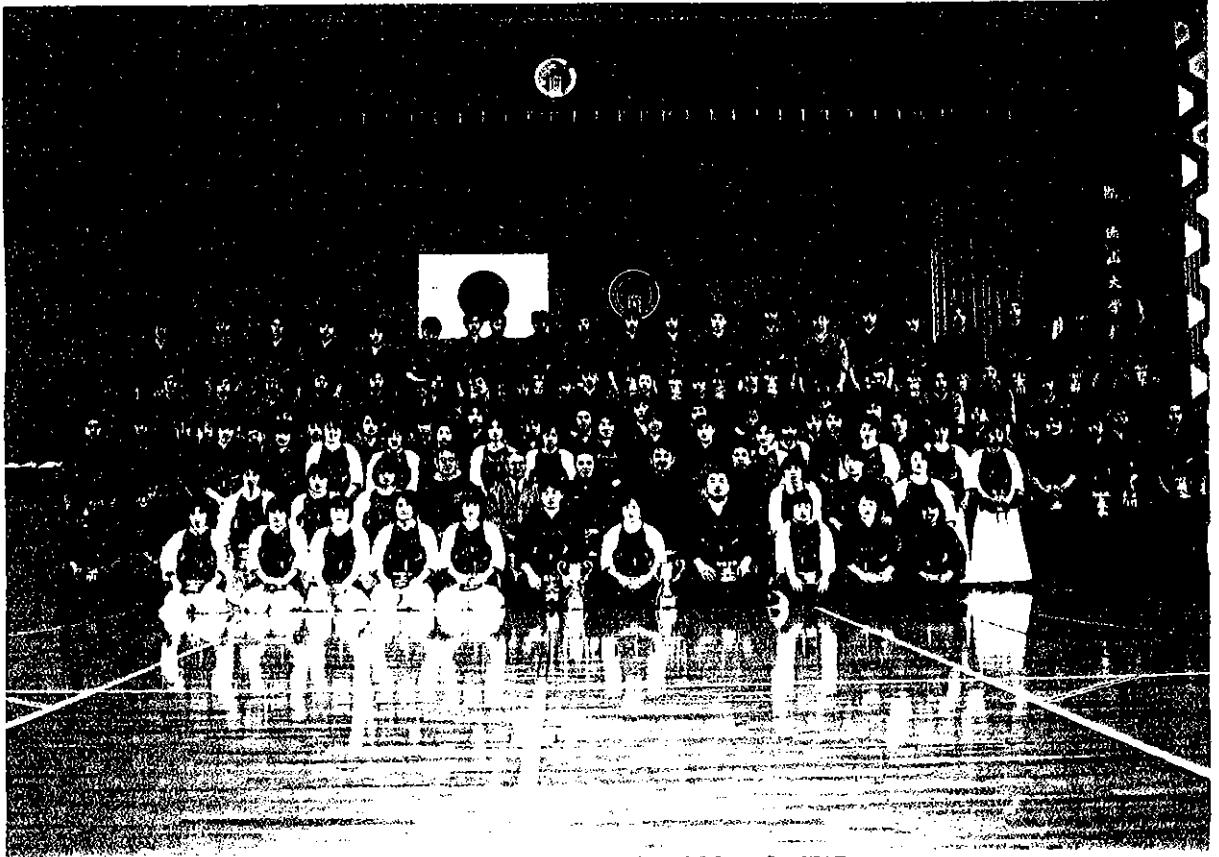


平成9年度リーダーズセミナー

平成10年3月14・15日

於 徳山大学



中四国学生剣道連盟

指導教官 木原資裕

山神真一

境 英俊

当番大学講師 榊 康守

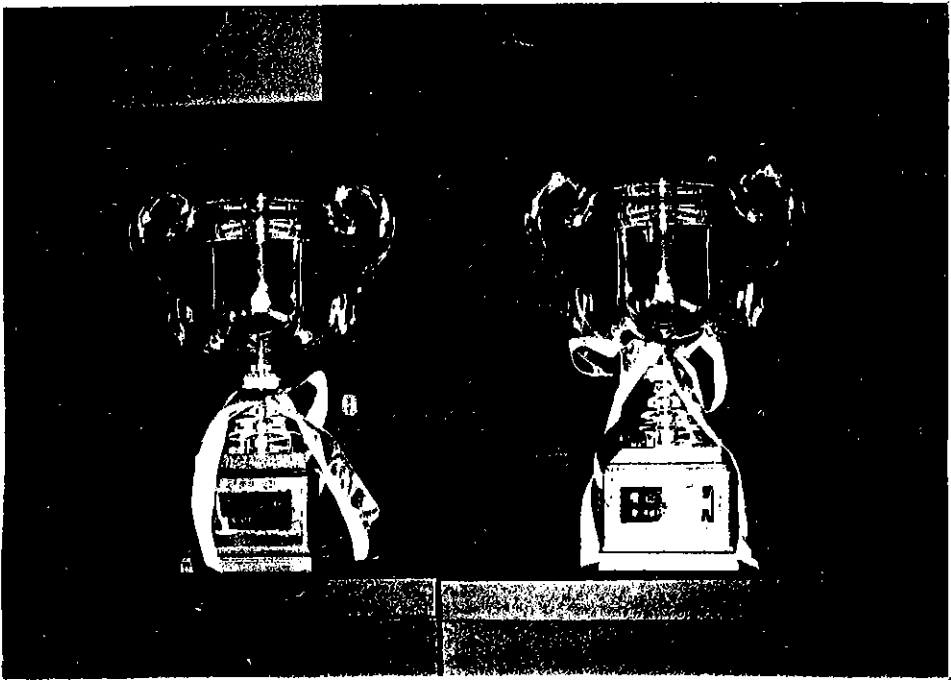
学生責任者 黒瀬貴博

冊子製作者 土江哲広

## リーダー選手権

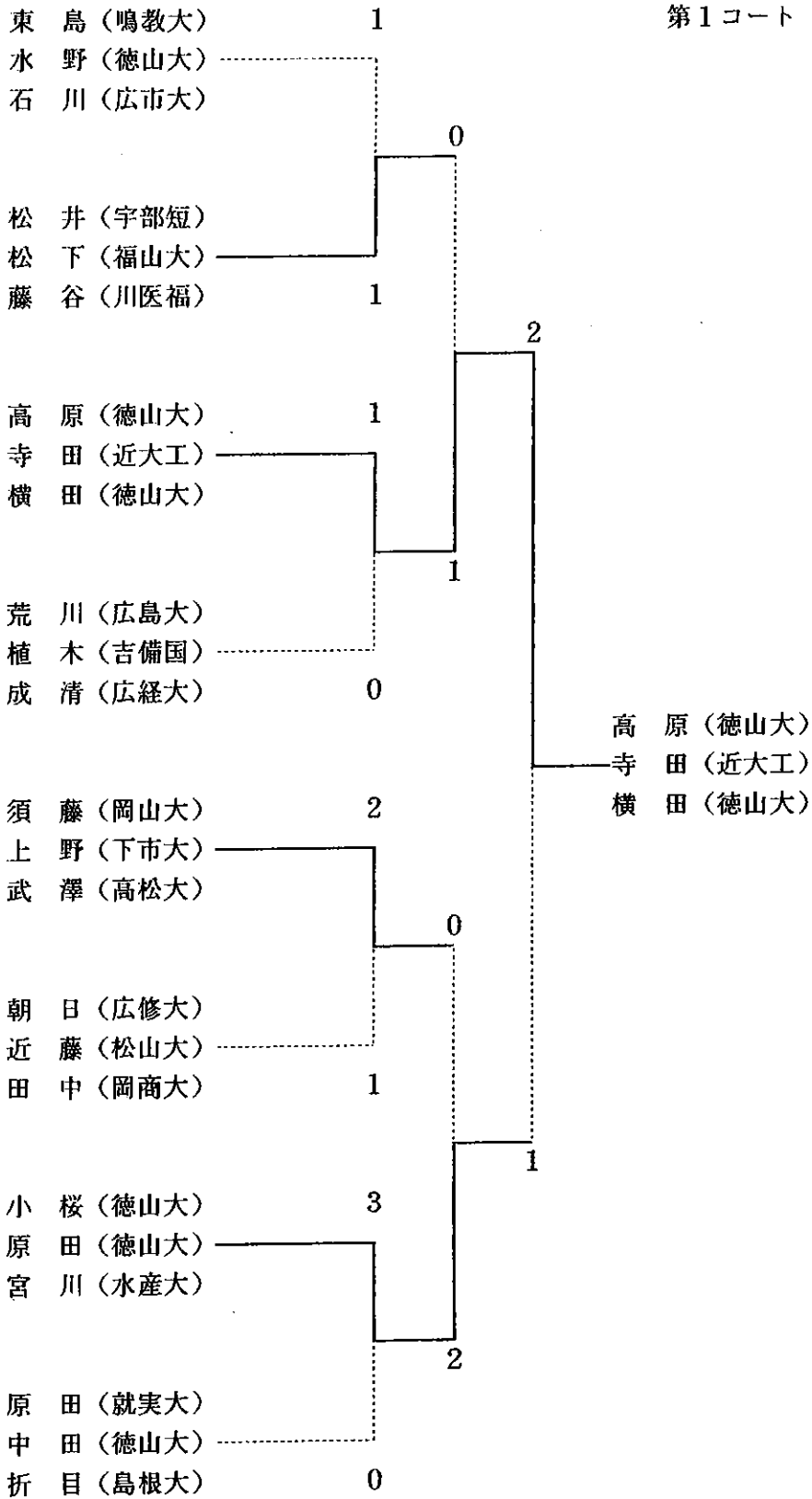
2日目の午前中にリーダー選手権を行いました。3人制の団体戦で、先鋒に女子、中堅・大将に男子をおいて、審判も学生がするという形で行われました。各大学の参加者は男女共ほとんどが主将ということもあって、レベルの高い試合が繰り広げられました。決勝でも白熱した試合に会場が沸き上がりました。応援する態度も、リーダーらしく立派で大変よかったです。

今回、他大学の人達と試合をしたり、いい試合を見ることができたことは、各自にとって本当にいい経験になったと思われます。また、団体の組分けが参加者の中のランダムなくじ引きによるものだった為、各校のリーダー間の交流も図れてよかったです。

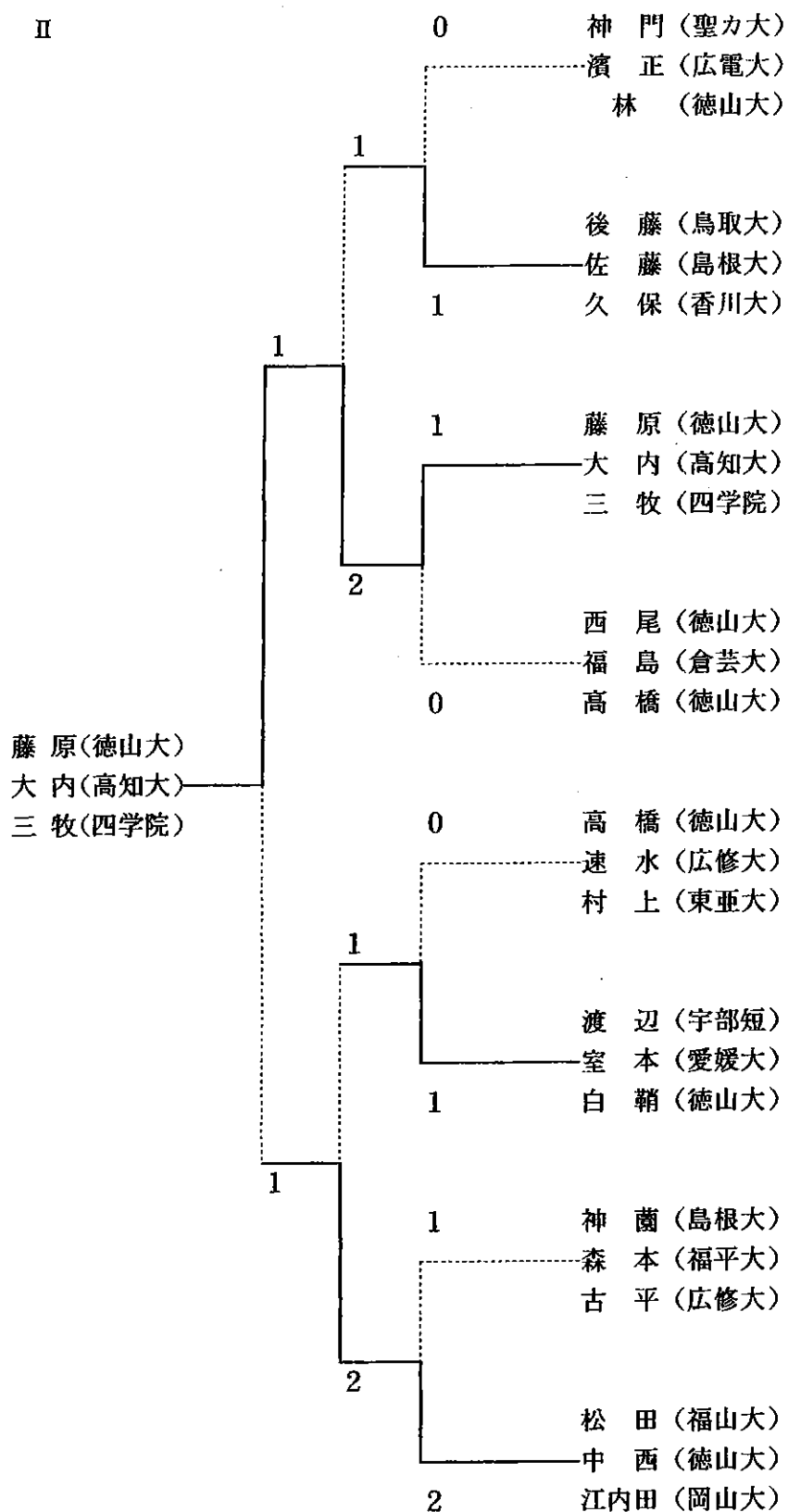


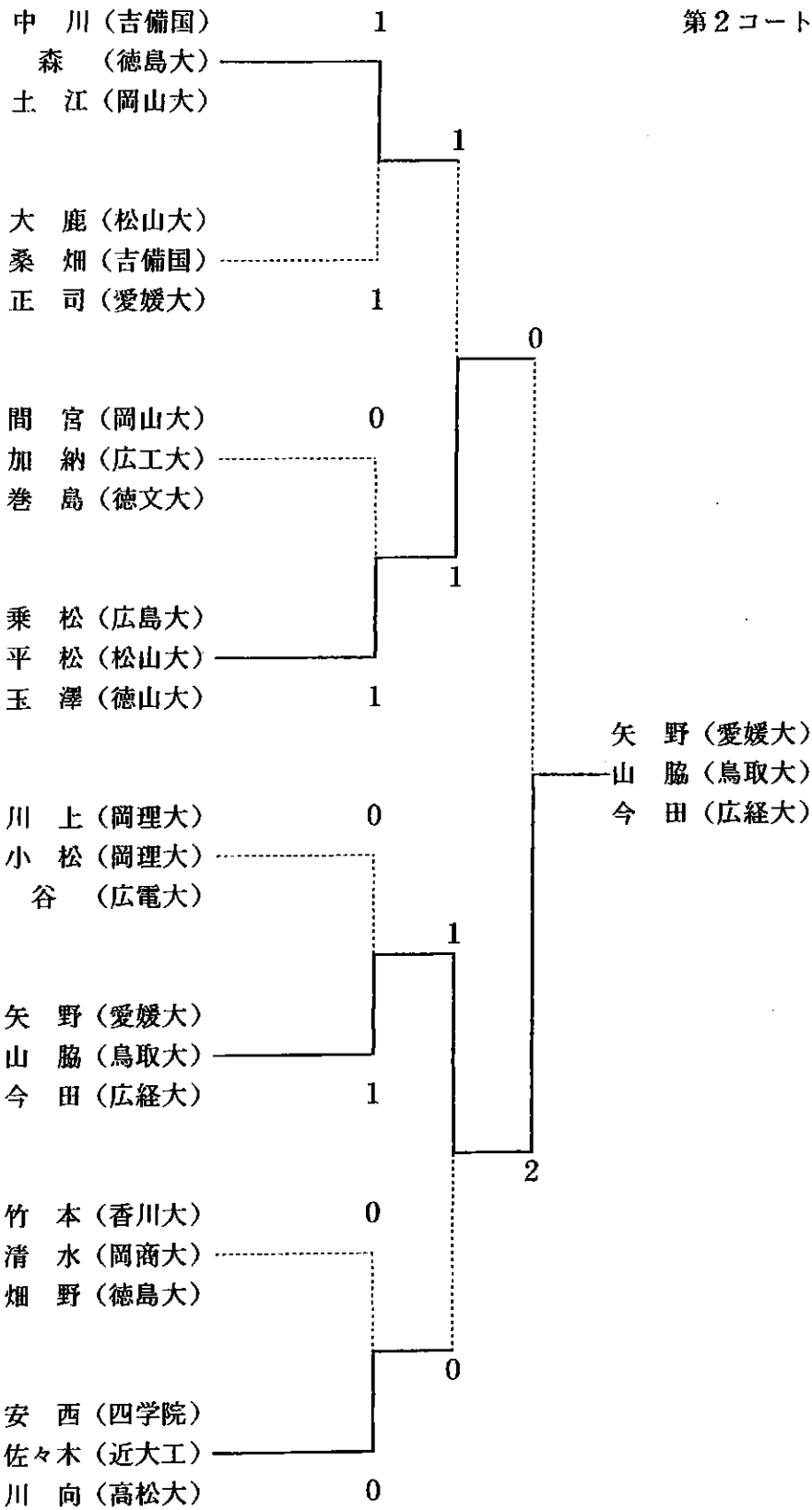
腰山会長より最優秀選手に贈呈されたカップ

第1コート I

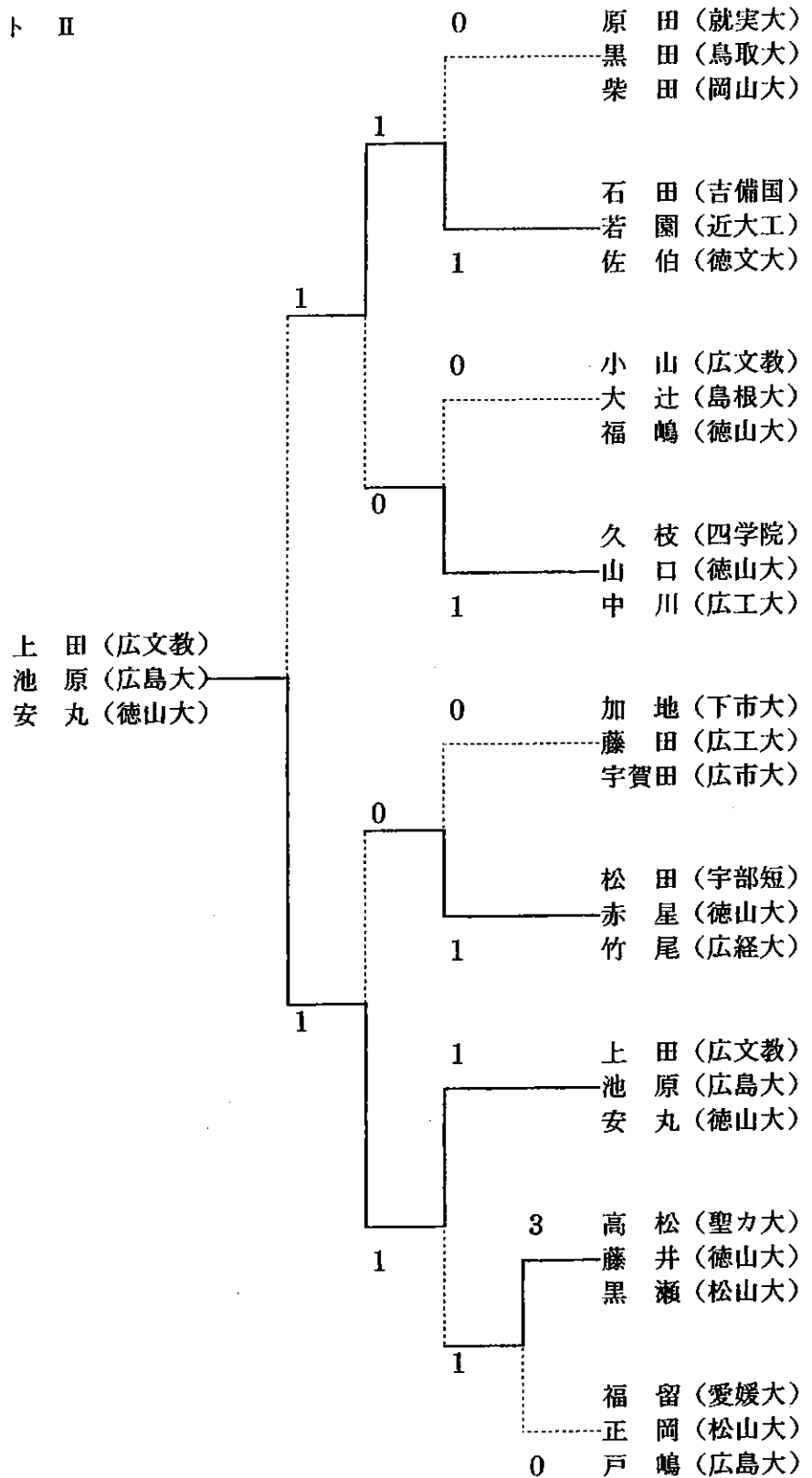


第1コート II

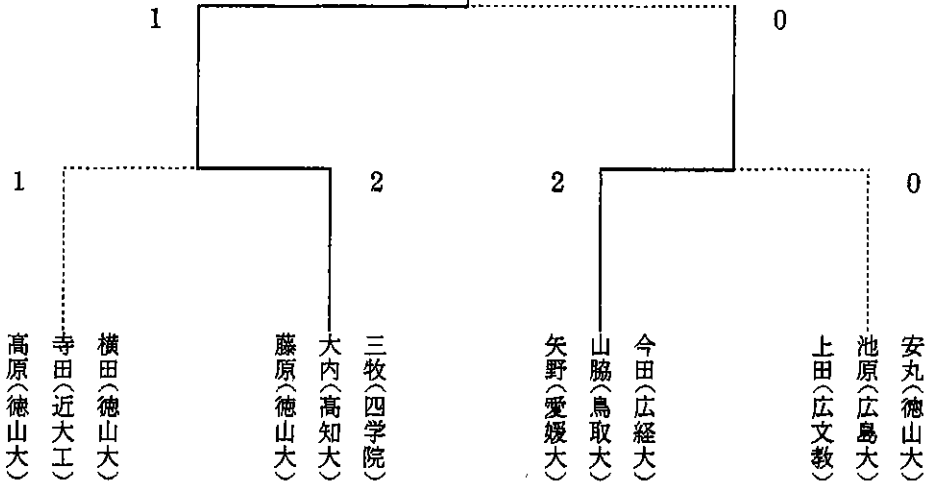




第2コート II



三牧(四学院)  
大内(高知大)  
藤原(徳山大)



準決勝 (第一コート)

横田 (徳山大)	寺田 (近大工)	高原 (徳山大)
○	⊗	一本勝ち
⊗	○	○
三牧 (四学院)	大内 (高知大)	藤原 (徳山大)

準決勝 (第二コート)

山脇 (鳥取大)	矢野 (愛媛大)	今田 (広経大)
○	⊗	一本勝ち
⊗	○	○
池原 (広島大)	上田 (広文教)	安丸 (徳山大)

決勝

三牧 (四学院)	大内 (高知大)	藤原 (徳山大)
○	⊗	一本勝ち
⊗	○	○
今田 (広経大)	山脇 (鳥取大)	矢野 (愛媛大)

優 勝・・・	藤原初美（徳山大）	大内雅登（高知大）	三牧 岳（四学院）
準優勝・・・	矢野香織（愛媛大）	山脇雅也（鳥取大）	今田裕也（広経大）
3 位・・・	高原敬子（徳山大）	寺田伸介（近大工）	横田省二郎（徳山大）
	上田菜保（広文教）	池原達夫（広島大）	安丸博幸（徳山大）

リーダー選手権における最優秀・優秀選手賞の受賞者は以下の通りです。

最優秀選手賞・・・	大内雅登（高知大）	藤原初美（徳山大）
優秀選手賞・・・	三牧 岳（四学院）	山脇雅也（鳥取大）
	池原達夫（広島大）	白鞘勝彦（徳山大）
	石田聖子（吉備国）	松田多代（福山大）
	矢野香織（愛媛大）	



優勝した大内(高知大)・藤原(徳山大)・三牧(四学院)チーム



## リーゼミディスカッション議事録

山神先生；今回のディスカッションは本当に真剣に考えてもらいたいということで議題は1つ。今年の5月10日に選手権大会が行われる時に、今までの全国大会につながる大会と違った大会で、とりあえずJr.大会と名付けた2部が実施されることが決まっています。ただし、その細かい詳細について、特に出場資格等は皆さんの了解を得ていませんので、その了解事項を今回のディスカッションで意見を出してもらって、皆さんも納得した形で選手権と同じように、Jr.大会も成功させたいと思っています。まず、出場資格について話し合いますが、それを固定的に考えるのではなく、第一回を始めるにあたり、今の現状と皆さんの考えをできるだけ繁栄し、上につながる大会ではないという秩序に合わせた形で、是非、皆さんが納得いく形にしたいと思いますので、今回、皆さんに決めてもらい、第一回はそれで行いますが、第二回以降は状態によって変わる可能性もあるという様にとらえていただきたいと思っています。ここで皆さんに報告しておきます。昨年5月10日の代表者会議で二部制のアンケートをお願いしました。その結果、48.3%の大学が賛成。17.2%が反対。34.5%がどちらとも言えない。ということでした。そこで連盟としては踏み切ったという背景があります。また、出場資格について、2段以下の選手に限定してはどうか。という問いに、賛成の大学は20.7%でした。ですから出場資格の案として、出場選手は大会参加料等の所定の手続きをした者に限る。選手権大会に出場した者はJr.大会への出場を認めない。但し、Jr.大会に出場した者が翌年以降の選手権に出場することは妨げない。という資料を送りましたが、それ以後、色々と検討して、本来の主旨は4年という大学の期間に一生懸命やっても、それぞれの事情で一回も公式試合に出れないという人達が、公式試合に準じた試合に是非出れるような大会を設けたいということを発表して、皆さんに意見を聞きました。それで、実は先程申し上げた制限だけでは色々な問題があるのではないかという意見が多々出ています。それについては私が発議をするよりは、ある程度違う出場資格を私共で考えてきましたので、それをこの後、ご披露して、それについて皆さんの色々な立場からの意見をうかがって、変えるべき事は変えて、あるいは、そのまま行っていいということはそれを決定の方向をもって行きたいと思っています。ですから、自分たちの大学の立場で結構でするので真剣に意見を出してもらいたいと思います。

山神先生が黒板に提示された2部の大会の出場資格

- ・1～3年生は2段以下の者に限る。
- ・4年生については段位を問わない。
- ・選手権に出場したことがある者は、2部の大会には出場できない。



香川大；選手権大会に出場すると2部には出場できないという出場資格ですが、女子の場合、選手権にフル出場する大学が多い。そこで、2部の出場枠30人ではトーナメントで行うと1回勝てばベスト16となり盛り上がり欠ける。だからその解決案としてリーグ戦をしてはどうか。どの人も2部よりも選手権に出たいと思う。男女共に2部制を設けるのだったら出場人数の関係上、女子の選手権の出場枠を減らさなければならない。そうなったら女子の立場からは認めにくく、やっぱり全国につながる大会に出場したい。

山神先生；女子の立場の意見でしたが、男子が125名、女子が30名という範囲であれば選手権の午前中で十分できるというように計算されています。また、今まで6試合場でやっていたのを1試合場増やして7試合場でやります。選手権については今まで通り十分できる。だいたい5時くらいには終わるという予定になっております。則ち出場資格の問題が一番重要となってきます。後、補助員の問題とか時間的問題。後、審判の問題はOBの先生方がしてくださる方向で頼みしております。長くなりますとそれだけ審

判員の先生方は大変なのですが、それはOBの先生方が一生懸命やってく  
ださることなので、それを心配せずに皆さんは出場資格について色  
々な立場から意見を出してください。

島根大；段位などの条件を出していると、ほとんど出れない大学が出てくる。あま  
り段位の条件を付けずに選手権に出てない人が2部に出るというふうにして  
はどうか。

山神先生；ちなみに、2段以下、あるいは3段以上の人数について、昨年調査しま  
した。その結果、男子で2段以下の人は中四で188名、男子の3段以上  
が235名、女子の2段以下が67名、女子の3段以上が112名でした。  
ですから2段以下の人数についてはいないようで結構いるという現状があ  
ります。

岡山大；選手権に1度出場した人はもう2部に出れないということだが、1・2年  
のときに強くて試合に出ていたが、怪我やブランクのためレベルが下がり  
選手権に出るのが難しくなった人達も2部に出れるというふうにしてはどうか。

山口大；質問ですが、どうして2段以下しか出場できないということになっている  
のですか。

山神先生；色々な考えがあるのですが、先程お話した人数的な問題、一般的に3段  
以上であると大学によって違いますが、3年までに1度は選手権に出れる  
可能性があるのではないかと。あるいは選手権に出ている名簿の段位を見て  
3段以上の方はだいたい出ているというのがあります。但し、4年生につ  
いては段位を設けないとしたのは大学の事情によっては非常に3段以上の  
人がたくさんいて、強くてもなかなか3年までに出来なかった。という人  
のために4年間の中で1度は公式試合に準じた形の大きな大会に出してあ  
げたいということで4年生に限っては段位を設けない。ですから人数が十  
分いるという問題と2段以下の人は公式試合に出れる確率が低いのではな  
いかという2点です。

山口大；2段以下をなくしたら何か変わりますか。

山神先生；例えばフリーにしますと、先程言った3段以上のたくさんいる大学にとっては、結構試合経験のある人が、Jr.の方で多くなってくると逆に試合経験のあまりなかったような人を救う気持ちで参加できるようにしたのに1回戦からそのような3段の人とあたって、出ても面白くないなと思われたら、自分たちの主旨としては違う。選手権に出れないからその準備段階として二部制を考えてもらうために考えたのではなく、4年間の中で段位の高い人でも出れない人がいるだろう。また、低い人にとっては出れない場合も多いから行っていく。段位のある人にとっては準備段階として、あるいはそういう人達がずっと出れますから、ずっと上位に上がるという可能性もある。そうすると、色々な人に活躍の場面を与えたいという主旨にずれてくる。実は、ある県で同じような試みをしたそうです。しかし、常に上位に上がってくる大学は決まった大学となり、参加しようとする人がいなくなった。そのようになったら主旨が半減、あるいは別の方向に行くので、できたら最初の段階に考慮したい。それから後、もっと先のことを考えれば、例えば、今まで選手権に出れない留学生といった人達にも準公式の場で活躍してもらいたいとか社会人枠に入った大学生といわれる方にもそういう場なら出場できます。そういう広く、剣道を一生懸命やっているけど結果が出ない、でも何か活躍できる場面があるという思いがあります。

木原先生；選手権のベスト16に入る選手は昔から剣道をしていた人がほとんど。2部制は高校、大学から剣道を始めた人達が頑張れる場を作ってあげられたらいいのではないかというのが主旨。選手権にギリギリ出られない人達が出る大会として位置付けられると主旨が違ってきて困る。

聖カ大；木原先生の話聞いて、始めは2段以下の人が少ないと思っていたので3段の人も出れたらいいなと思っていたが、主旨を聞くと経験の少ない人が出れるようにとの事なので、主旨が分かっていたらあまり段位とかの制限をせずに、公式試合に出れない人達が出たらいいと思う。

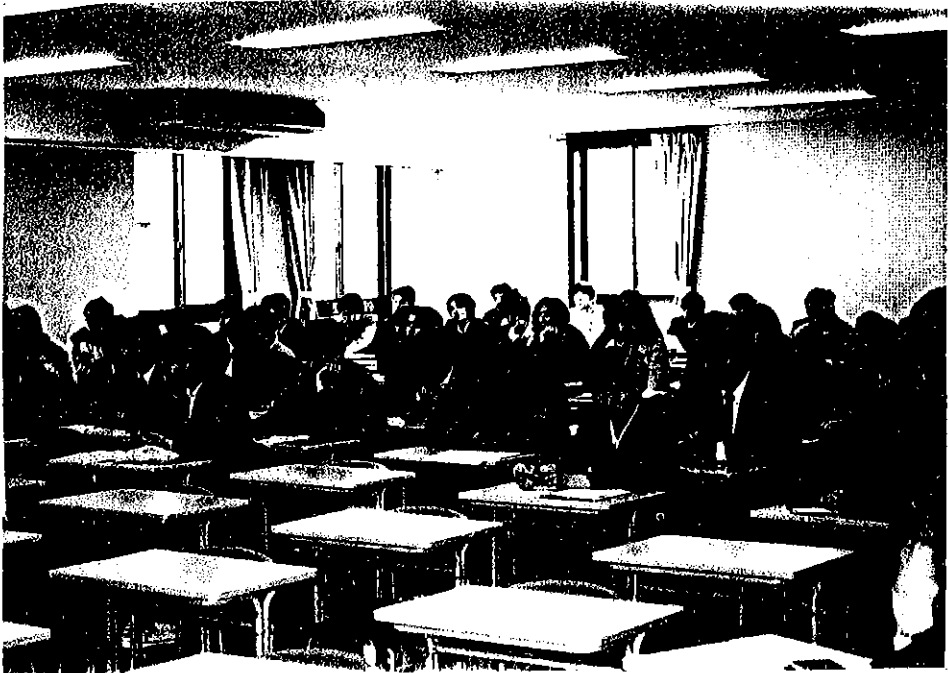
徳山大；真剣に考えるなら日程を5月10日の選手権とダブらせたら、2部の方の盛り上がりがないと思う。選手権の方に皆、気合を入れるというか、頑張っていくから、どうしてもそっちの方に目がいくし、2部の方に応援とかあまりなく、中途半端になってしまうと思う。2部の大会を始めるなら中四国の全体的な規模にしたいので、そういうことならリーゼミは徳山大学が引き受けます。2部の方に出るようになったら、選手も補助員とかできなくなる。

鳴教大；私達の大学は初心者が多いのでありがたい。2部制の出場資格は段位ではなく、経験年数で制限した方がいいのでは。

境先生；日程の移動は可能ですか。

幹事長；まだ可能です。6コートを7コートですという事は先生方に伝えてある。

山神先生；現在こういう大会を決議したというのは、評議員の間では決議していますが、評議員の先生の意見でもやはり学生の意見が一番大事だという事をおっしゃっておられますので、どうしてもそのようになった場合再考の余地があるのではないかと。事務局としてはずっと積めて来ているけれど、5月10日にやらないという可能性はありますか。評議員に対してはこちらから報告しますが、皆さんの意見が態勢を占めるという事になった場合にはそちらを優先したいと思っています。事務局側の積めて来た問題もありますが、そちらで、もう印刷ができていたりとかあるいは準備を5月10日にしていて変えられたら非常に大きな損害があるということはない。ということですので可能性はあるんじゃないかと思うのですが、いかがですか。



鳥取大；日程を変えることはいい事だと思う。しかし、日程が変わったら、2部に出場する選手も選手権の方にも応援に行った方が勉強になると思うが、その場合、費用の面で難しい。だからといって、どちらの大会にも選手しか行かないというのも問題があると思う。その辺も考慮した方がいいのでは。

山神先生；別の日に行いますと実質、大会が増えるわけで、今回のリーゼミに兼ねるという日程的な問題は別にして、例えばリーゼミに兼ねて、定期的にと  
いう問題にしても、応援の人とか、たくさんの移動が伴うし、具体的には  
審判をどうするかという問題があります。先生方にまた来てもらうとな  
ると大きな問題が出て来ます。そのような現実的なことを含めながら、この  
可能性を手探りながら進めなければいけないという条件があります。具体  
的には、今、参加資格について話をしているわけですが、別の日にやると  
その規模の問題が当然ついて来ますのでそういうことに関しては事務局の  
中四の幹事の方で予算面、あるいはもう少し積めて話をしていけたらと思  
います。

四学院；今までの意見を聞いた所では黒板のままでいい。

高知大；主旨を理解したら条件はいらないと思う。岡山大学の方が言われたように、  
選手権に出場した選手は2部の大会には出られないという条件では怪我やブ  
ランクなどで選手権に出場できない選手の問題がでてくるので、黒板の上の  
2つの条件だけでいい。

福山大；4年生になったら就職活動などで部活に出れない人がいるので、3年生以  
上で段位を問わないとして欲しい。

高松大；部員数が少ないと部員全員が3段を持っているという状況が起こり得るの  
で、2段以下という条件では誰も2部の試合に出れない事もあるので、段位  
の条件を外して欲しい。

吉備国；福山大の意見に賛成。1・2年で芽が出なかった人が出れる大会となるよ  
うに、3年生以上から段位の条件を問わないようにしては。

下市大；黒板に書いてある条件で自分の大学では問題ない。

水産大；部員が少ないので黑板の方針で自分の大学はいい。

広修大；鳴教大の人が言ったように、段位ではなく、経験年数を条件にした方がよい。

広工大；自分の大学では2段以下でも選手権に出た者がいるので、選手権に出場したことのある人は出場できないとすると、書類に書かれている人数は出せないで、選手権に出場したことのある人は出場できないという条件は外して欲しい。

岡商大；3段以上の人を出すとその人ばかり有利になると言われたが、2段以下でも実力はそれ以上の人もいるので、いちがいには言えないので段位制限を決めない方がいい。

岡理大；2段以下の人でも強い人は強いので、段位を問わないという条件が4年生では遅すぎる。それと、選手権に出場経験のある人は出場できないという条件だが、1回も出場していない人を優先して出すようにして、出場経験のある人も出てもいいのでは。

宇部短；短大は2年間しかなく、ほとんどの人が3段を取っているので、3年生以上で段位を問わないとしても2部に出場できない。

広電大；4年生で段位制限を設けないと4年生の実力者が出て上位独占することも有り得るので、無制限はよくない。

山神先生；4年生で段位を設けないとすると、4年で強い人もいるわけなのでそういう人達に占領されるのではないか。だから4年でそういう人達は3つ目をおいておけばそういう人達は出れないのではないのでしょうか。3年生までで出ているのではないか。微妙なレベルは別ですが、3つ目を原則として入れておけば3年までで、きちんといった人であれば強い人は3年までに出ていて4年では出れない。

東亜大；主旨を考えると、黑板の条件でいいと思うが、その条件だと自分の大学では今のままでは出れる人がいないので、福山大が言ったように、3年生以上で段位を問わない方がいい。

就実大；3年生の終わりには引退するので、3年生以上で段位を問わないとして欲しい。また、短大の事も考えると、段位制限を除いた方がいいのでは。

山神先生；4年生の大学と短大とでは意見が違いますが、これは1つの案なのですが、4年間のうちの3・4年で段位を問わないということになると短大に関しては2年生で段位を問わないというようなことも同じ観点で考えられます。

広文教；2部で上位にいても上の大会にはつながらず、盛り上がり欠けるので、他の日程にした方がいい。

岡山大；段位で制限すると、2部に出ようと思えば3段を取らなければいいし、経験年数で制限すると、大学から始めてレベルの高い大学で練習している人の方が、中学校から始めても練習をあまりしなかった人より強いと思うので、中四国の大会に出場したトータルの出場回数で制限してはどうか。また、日程についてだが、選手権と同じ日だと盛り上がり欠けるので、新人戦と同じ日にすると、2部に出場する人は3年生に指導されて向上するように思う。





山神先生；最初の意見については中四でやっている3つの大会において各学年によって、1年は最大で3回、2年生は最大で6回、3年生は9回、そのような感じで、学年も考慮して、選手権だけでなく、中四の大会の公式試合で、学年によって、何回出場している人は遠慮して頂くというご提案だったと思います。後の意見はこれも非常に色々な要素あるいは問題を抱えています。現実的に考えた場合、春の大会は上につながるということで非常に盛り上がりにかける。あるいは集中できないということを考えると、新人戦は上の大会につながらないという前提の元で、新人戦に出るというグループとJr.大会に出るというグループを出して、それぞれの立場の中で可能性を見いだせるという意見でしたが、彼女の意見について何かありませんか。

香川大；新人戦も上の大会につながらないという点で2部とにているので、もし、2部を新人戦と同じ日にするのなら、新人戦と2部制をもう1度考え直してみても、新人戦の女子の個人戦を団体戦にして同じ日に2部の個人戦をしてはどうか。

副幹事長；新人戦の運営側として、新人戦はほぼオープン戦としている。そして、女子の場合、1・2年で団体が組める人数が少ない大学が多い。また、1・2年は新人戦の方に出場するので、2部に出場できる3年生も少ないことから、2部の大会の規模も小さくなり、盛り上がりには欠ける。

山神先生；女子の団体戦は5人制をイメージしているのですか？

香川大；女子の団体戦は3人制だと2人でも出れるので3人制を考えている。

副幹事長；最近加盟した大学の場合、部員が1・2人という大学もあるので、そのような大学の出場資格をなくしてはどうか。

木原先生；日程を変えらるとなるとまた評議員などに通したり、運営側としても振出しに戻るのでは、とりあえず、第1回は5月10日にしてはどうか。

山神先生；絶対5月10日はいやで、他の日にしてくれという方。どうでしょうか。2つ聞きたいと思います。絶対いやだということと、もし今回はその日にやるけれどもできれば別の日程で考えてもらいたい。

(多数決をおこなって)

とりあえず5月10日ということできたいと思います。皆さんの意見も色々でした。少々最初に私が言いましたように今回決める色々なことも永久的に決めるのではなくて、その度、参加資格、あるいは今後のあるべき姿を検討していきたいと思います。それで、これから色々出た中で何通りか、そんなにたくさんも上げられませんので、3つくらいの選択し、あるいは3つ前後の選択肢の条件のパターンを出してどちらかというこのパターンでやって欲しいということ決定したいと思います。

木原先生；今までの話し合いから皆が納得できるだろうと思うことを挙げると

\* 3・4年生（短大は2年生）は経験年数、段位を問わない。

\* 1年生から2年生（短大は1年生）は経験年数5年未満。

ということである。経験年数というのは段位制限の場合、2段の元国体選手などが2部で上位独占されては困るから。1・2年生の縛りが重要となってくる。部員数の多い大学では上級生から選手権に出て、強い1・2年生が2部に流れ、上位独占してしまうと、主旨に反する。

山神先生；木原先生がおっしゃったように、1・2年、短大に関しては1年生は経験年数という視点から、例えば、5年未満ということに提案についてはどうですか。賛同してくれますか。あるいは年をもう少し変えてくれという意見があれば、則ち、1年生にとっては5年となると中学校3年生あるいは2年生から始めたというようなことになります。どうですか。5年未満であると、取れても2段までです。ですから2段以下というのが裏側にはあるのですが、経験年数というのを下級生については取り上げようという意見に対してどうですか。学生諸君の申告ですから、学生諸君が主旨をしっかり理解した上でそういう申告をきちんとしてくれるというのを前提に先生が提案してくれていると思います。

高知大；自分の大学では小学校の時6年間やっていて再び大学になって始めた人がいるが、とても大学生レベルとは思えないのだがこのような人も出場資格はないのか。

木原先生；それは、3年生になるまで待つしかない。

山神先生；4年間を基準に考えていますから、4年間の間でその主旨にのっとるよ

うな経験をして欲しい。誰も最初の方で出たいし、出してやりたいと思います。

福山大；自分の大学では、3・4年生が主に選手権に出場するので、1・2年生の出場条件を経験年数6年未満にして欲しい。

山神先生；先生方で話し合い、原案に戻ってみようということになりました。その理由は、まず第1回だからやってみないと分からない。分かっていることは選手権と同じ日に行うから、選手権に出る人とJr.に出る人の両方の意見を今回やってみて聞ける。ですから、今のところ出場資格は大会参加料の所定の手続きをした者に限り、選手権大会に出場した者はJr.大会への出場を認めない。そして、やってみまして、その後、またアンケート調査なり、皆さんの意見を聞く、やってみての意見というのはまた違った意見が出るかも知れません。むしろ真実に近い意見がさらに現実的な意味合いで出て来ます。

それでは、今日の現段階ではそのようにしておきます。しかし、木原先生が途中おっしゃった主旨については皆さん忘れないでください。

## リーダーズセミナーアンケート報告

リーダーズセミナーの締めくくりとして参加者にアンケートを取りました。その結果を集計し、いくつかの意見を上げてみたので読んでみてください。

### 1. 合同練習について

・境先生が細かい所まで御指導下さって大変勉強になった。是非大学に帰ってから練習に取り入れたいと思った。また、稽古の時間が長かった為、普段、大会以外では剣を交えることのできない方々と稽古ができて良い経験になった。(岡山大 須藤佳奈)

・少し時間が長くなったせいか最後の方は後ろに下がって見学する人が多かったので来年から少し時間を考えれば良いと思った。(徳山大 白鞘勝彦)

・初めてこのような事を体験してみて、大変勉強になった。自分達の大学で練習をやっていて気付かなかった事が分かったのでこれをしっかりと頭に入れてやっていこうと思った。(水産大 宮川匠)

・自分の大学には指導者がいないため、繰り返しなど皆、適当にやっていたのだが、繰り返しについての指導などを聞いて感銘を受けた。また、自分の大学は人数も少ないので、いろいろなタイプの相手と稽古ができて新鮮だった。(下市大 上野寿)



・まず、自分の大学の準備体操の素振りの仕方から直さないといけないと思った。ただ、なんとなく素振りをしているような気がするので、主将と相談して、早速直していきたいと思った。また、地稽古では、先生にかかっていくことができ、充実した練習ができた。（四学院 安西真里）

・他の大学の人達と稽古ができて良かった。ここに集まった人は各大学のリーダーなわけで、各大学では、見本になる剣道ができないといけないと思う。だから、基本から教えていただければ良かったと思う。（福山大 松下章久）

・練習不足だったが、他の大学の方も頑張っていたので頑張ろうという意欲が沸いてきた。先生からの御指導も勉強になった。（宇部短 松田仁子）

・合同稽古は境先生の御指導のもと、しっかり稽古できたと思う。合同稽古では、小手打ちや胴打ちなどをしなかったの、できればいろいろな技の打ち方をもっともっと指導してほしいと思った。（広文教 小山ひとみ）

・理大剣道部はほとんどが男子で、女子の人数が4人と少ない為、女子と練習をする機会が少なかったのよかった。男子との練習では、分からない自分の駄目な点が分かったと思う。（岡理大 川上亜希子）

・多くの人達と地稽古ができ、人数の少ない大学のものにとってさまざまなバリエーションで稽古ができた。また、ある程度以上のレベルの人の参加なので、稽古をしていて面白かった。（鳴教大 東島幸）

・普段、大学同士、一緒に練習したり、試合練習する機会がなかなかないので、今回はいろいろな人と練習することができて良かった。（松山大 大鹿一美）

・いつも、あまり努力するでもなく、なにも考えず適当に数だけ振って、部が始まる前の決まり事程度にしか思っていなかった素振りの大切さを知った。違う大学の人達ともでき新鮮で良かった。（就実大 原田美香）

・今までとは違った感じだとて新鮮な稽古だった。先生方にも稽古をつけてもらいとても勉強になった。他大学の剣道を見ていろいろためになった。（近大工 寺田伸介）

・鳥根では相手に恵まれず刺激が少ない。その中で他大学の人と剣を交えることは、非常に勉強になるし、ありがたい。中四で活躍している人とも剣を交えることで、自らの剣道に取り組む姿勢、態度について改めて考えさせられた。（鳥根大 佐藤憲也）

・様々な学校の様々なタイプの人と一緒に稽古することができ、自分にとってはいい稽古だった。普段、少人数の限られた空間での練習で物足りなさを感じていた私であったが、こういうふう違う学校の人とすることにより、自分の悪い所や相手の良い所、悪い所などいろいろ研究することができた。先生の指導により本来のその技の意義が少し把握できたように思う。（聖カ大 神門絵葉）

## 2. ディスカッションについて

・徐々に意見が活発化してきて大変面白かった。時間の都合等でやや中途半端な終わり方をしたのが悔やまれる。(高知大 大内雅登)

・2部制の意味を理解すると、4年間頑張っても試合に出れない人達にもチャンスを与えてあげる事は、とても良いことだと思った。(福山大 松田多代)

・自分達の意見を話せただけでなく、他大学のリーダーの人達の意見が聞けて大変良かったと思う。しかし、あれだけ意見が言えたのに、結果が最初とあまり変わらなかったのが残念だった。(高松大 武澤豪)

・もっと1つ1つの事を確実に決めていくべきだったと思う。たくさん意見を聞くことは非常に大切な事だと思う。しかし、ある程度きたら、多数決を取って決めるとかしたら良かったのではないかと思う。(愛媛大 矢野香織)

・2部の大会については様々な問題があると思うが、とりあえず実施してみて改善していけば良いと思う。(広市大 石川宏)

・各大学の意見は大変良かったと思う。また、2部制を導入したことにより、よりたくさん剣道家たちが参加をするチャンスが増え、大会も増えることにより中四国の剣道家も増え、活性化されていくと思った。(高松大 川向利之)

・ディスカッションは少しまばらな感じがした。1つの意見をもっと大事にしてそれを発展させればもっと良かったと思う。2部の大会については学生にとって出場したいのは選手権だけであって、2部の方の大会にはあまり出ないと思う。それに同じ日に行くことは、選手権の方に出る人はそちらの方が本命で応援に行ったりとかできなくなり、さみしい大会になるのは必至だと思う。(愛媛大 正司哲朗)

・多くの意見が出て良かったと思う。しかし、意見がまとまらなかったのが残念に思われる。もう少し時間を取って話し合うようにしたら良いと思う。(岡理大 小松貴巳)

・2部について主旨にのっとったものにするには、出場資格、日程についてまだまだ見直す点が多くあると思う。しかし、日程を全然別の日にするには費用の面からもきついで、土曜の昼に2部、日曜に選手権を行ってはどうか。(鳴教大 東島幸)

・参加する前に剣道部内で話し合い等をして、ある程度自分達の意見をまとめたものをもった上で行えば、もっと積極的に発言できたように思った。(鳥取大 山脇雅也)

・ふりだしに戻りはしたが、中身は大きく変わったと思う。また、ほかの議題についても話し合ってみたい。(鳥取大 後藤瑞千紅)

・私は去年のリーゼミにも出席したが、やり方として今年よりも去年のようによくつかのグループに分かれて意見を言い合うといった形の方が皆が意見を言いやすかったのではないかと思った。とりあえずは2部の大会もやってみないと問題点は

分からないと思う。(吉備国 中川あや)

・思っていたよりもたくさんいい意見が出て良かったと思うが、最終的にもとの案のままということになってしまったのは少しさみしい気がした。2部制の試合は軽視することのできない問題で、もっと真剣に考え、意見を出すべきだと思った。

(就実大 原田美香)

・2部の大会については、やはり一度行ってみないとわからないと思う。そのあとで感想や意見を募ることが必要だと思う。(香川大 竹本由希子)

・自分達が考えていた意見以外に思いつきもしなかった意見を聞くことができ非常に有意義だった。議題の2部制については1日で解決できるものではなく、時間ももっとあればよかったかもしれない。(香川大 久保泰博)

・新しい事を始めようとする時、賛否両論が出ると思う。最初から完璧にはできないと思うのでやりながら修正していくことが大切だと思う。(四学院 三牧岳)

・発表を聞く度に、自分の意見も変わり、いろんな角度から2部での大会の出場資格や日程を考えられて良かったと思う。(四学院 安西真里)

・出場資格についての討論でいろいろな案が出されたのだが、やはり、全ての人をカバーできる出場資格は難しいと思った。1つの案があると誰かが出れなくなってしまうという事態ができてしまうので出場資格は今日決議したようにかなりフリーにした方が良かったと思う。(広島大 荒川佳子)

### 3. 懇親会について

・先生方や他大学の人と楽しく過ごせた。私は九州出身で中四国に知り合いが少なかったのだが、たくさんの人と友達になることができた。剣道以外の話もできたので良かった。(聖カ大 高松まどか)

・名刺交換などをしたりすることで、話もでき、又、先輩や後輩とも久々に話したりしてとても良かった。ビンゴゲームなども含めて、食べたり飲んだりも楽しかった。こういう会は顔合わせとしてもとても楽しくできて、これからもやった方がよいと思う。(吉備国 中川あや)

・非常に楽しく食べたり飲んだりできたと思う。香川大の山神先生のビンゴゲームなどとても楽しかった。剣道をしている人が集まってこのような会が行えたことを非常にうれしく思う。(吉備国 植木潤)

・懇親会はいろいろな人と知り合いになることができ、大変良かったと思う。だけど、あまり酔うことができず、フィーバーできなかったのが心残りだ。(島根大 折目裕士)

・座って落ち着いて食事できたのは良かったが、どうしても同じ大学の人と固まりがちになってしまうので、もう少しばらけるようにした方がいいと思う。(鳥取大 黒田敏則)

・他大学の人と仲良くなり、名刺を交換できたりしてとても楽しかった。できれば全員と交流をもてれば良かったが、それなりに話すことができ、大変良かった。ビンゴゲームがとても盛り上がって良かった。(東亜大 村上聡太)

・私は名刺という物がまだないから、名刺をもらってまず感激し、ビールをついでもらい、ビールをつぎ、一緒におしゃべりできてすごく嬉しかった。今度、試合であったら挨拶したい。(吉備国 石田聖子)

・各大学と交流を深める事ができる場として、最もよい方法だと思った。山神先生など日頃話ができない先生方とも話ができ、いろいろな一面がみえておもしろかった。(吉備国 桑畑慎祐)

・始めだけ席を指定してほしかった。名刺がないために挨拶にまわることができず、また、マイナーな大学なので、挨拶にも来てもらえずに少し寂しかったので、始めだけ席を指定してまずその中で自己紹介などできるようにすれば良いと思う。(下市大 上野寿)



・とても楽しくて良かったと思う。名刺を配りながら様々な人と話をし、顔を広げることができた。また、他大学の練習法やスタイルなどを聞くことができた。今後参考にしていきたい。(島根大 神蘭多恵)

・皆すごく盛り上がっていて、1年生の私には大学の姿が見えたように思えた。先輩方や同級生の方と声を交わしあえて、これからの大学のサークル活動が楽しみになった。大学生活での1番の盛り上がりだった。(広文教 上田菜保)

・立食パーティのような感じはちょっと失敗に思えた。なぜならば、結局、ほと



んどの人が椅子をもってきて座っていたからだ。もっといろいろ移動して、多くの人と話をしたかった。そういった工夫をなにか考えてほしい。(鳥取大 山脇雅也)

・ゲームの時間などには盛り上がっていたが、椅子に座ったままでありがちだったと思う。テーブルのまわりに椅子がなければ、もっと他大学の人達と交流を深められたと思う。先生方はおもしろい面がみられてよかった。(香川大 久保泰博)

・先生や各大学の方と、いろいろな話をする事ができてよかった。先生からはこれから私達がどのようにやっていけばよいかなど聞いたのでこれから参考にしたい。また、各大学の人と友達というか顔見知りになれとても楽しく過ごす事ができた。ただ、1つのテーブルにいと、他のテーブルの人と交流する事ができなかつたり、自分の勇気のなさのせいで誰とも顔見知りになる事ができず少し残念だった。自分なりに楽しめたので十分満足できた。(聖カ大 神門絵葉)

・夜の懇親会ではみんなでお酒を飲みゲームをして、今まで知らなかった人とも話せるようになりとても良い席になった。(近大工 寺田伸介)

・思ったより盛り上がったと思う。他大学の方など日頃会って話をしないので、各大学同士がもっと深く付き合えて良かった。(徳山大 高橋淳)

・あまりたくさんの人と話すことはできなかったが、先生方にいろいろ話を聞かせていただいたり剣道の指導をしていただいたりとても嬉しかった。ゲームも楽しかった。(香川大 竹本由希子)

#### 4. リーダー選手権について

・違った大学の人と一緒にチームになって力を合わせて試合に勝った時は本当に嬉しかった。優秀選手賞で面紐をもらってさらに嬉しかった。こういう場であこがれの先輩と一緒に試合ができてすごくいい経験だし、次の試合のステップになった。(吉備国 石田聖子)

・自分自身試合は1回戦で負けはしたがチームの人と仲良くなれ、他の人の剣道を見ることができ、自分もこれからやらなければならないという気持ちになった。(東亜大 村上聡太)

・こういう団体戦は普通はできない他大学の人とチームを組むことができ面白いと思う。懇親会で話せなかった人とも話ができ、とても良かったので来年もやったほうが良いと思う。(鳥取大 黒田敏則)

・惜しくも2回戦で敗退したが、思ったより楽しんで剣道ができた。女子大なので男子と同じチームで試合をするのは緊張した。次回のリーゼミでは優勝をねらって剣道着をいただきたいと思う。(聖カ大 高松まどか)

・あまり盛り上がらなかったけどいつもとは違うメンバーで試合ができ面白かった。審判など進んでやってくれる人などがあまりいなかったのが残念だった。もう少し力を貸して欲しかった。(徳山大 小桜真貴江)

・今回、3人制で女子1人、男子2人というチームで戦ったわけだが、他大学の方と一緒にチームを組み楽しかった。おまけに今回の試合で優勝させていただき大変嬉しかった。(徳山大 藤原初美)



・同じチームの人が高校時代、地元の先輩だったので地元の話をして盛り上がった。試合がチーム制でないと仲良くなれなかったのが、このようなやり方は良かったと思う。ただ、3人制なので応援などの拍手が少なく寂しかった。(四学院 安西真里)

・練習不足もあってチームの人の迷惑をかけ、チームが他大学の人ばかりでいつもとはまた違う緊張感があったが、とても楽しかった。また、強い先輩の試合も見れて良かった。(宇部短 渡辺綾子)

・3人制の団体で、即席で作ったチームで戦うことができ、新鮮な気持ちになることができた。自分は1試合で終わってしまったが大変充実した大会になったと思う。(島根大 大辻俊裕)

・今まで全然知らなかった人とチームを組んで、普段とは違ったプレッシャーがあった。少し足をひっぱっていたので他のチームメイトにすまないと思った。(近大工 佐々木裕也)

・あまり盛り上がらなかったように思うが、普段は一緒にチームを組むことのない他大学の人とチームになって試合をするということは面白かった。でも、負けてしまったチームの人は、その後の試合に無関心になってしまったことが少し寂しかったように思う。(松山大 大鹿一美)

・最初は盛り上がりに欠けていたような気がする。2試合場では少ない。4試合場にすべきだと思う。(島根大 佐藤憲也)

・聞くとところによると前回までは個人戦だったそうだが団体戦のほうが良いと思った。他大学の人とも仲良くなれるし、見ていてもやっけていても面白いので団体戦の方が良いと思う。高度な試合の場面もあり負けてしまった人も見取り稽古として良かったと思う。(岡山大 須藤佳奈)

・試合方法はいろいろな大学が混じり良かったが、時間が長かったので2コートではなく4コート使うとか4分を通しでするなどのやり方が良いと思う。(東亜大 鈴木俊孝)

・試合は団体戦で行われたのが良かった。また、女子も混じり他大学の人と一緒にする試合は大学での団体戦とまた違った感じがした。また、時間についてはもっと考えた方が良いと思う。(高松大 川向利之)

・新しく知り合った人と一緒になってやるのはなかなか面白かった。すごく仲良くなれたし、試合運びも教えてもらえてすごく勉強になった。3位になった。これが私の大学初試合になった。多くの試合を見れて大変良かった。(広文教 上田菜保)

・去年までは個人戦だったというのを聞いていたので始めは驚いた。けれども、いろいろな大学の混合チームということだったので、連帯感みたいな感じで懇親会とは違った仲の良さというか、親睦が深まったように思う。(鳥取大 山脇雅也)

・先生方が試合を見るためという理由もあるだろうが、2試合場しかなかったのは会場の盛り上がりの度合いや進行のスムーズさに影響していると思う。いろんな大学の選手でチームを組むのはすばらしいことだが、もっと交流を深め盛り上がるようであれば良かったと思う。(香川大 久保泰博)

・男女共にチームになるという考えは良いと思うが、チームになってその後すぐに試合だったのでチームワークがうまくいかず、個人戦という感じを受けてしまった。自己紹介など少しはできる時間があればますます良くなるのではないだろうか。大学になり男女共にチームになるということは全くないのでいい経験になった。もう少し楽しく盛り上がれば良かったと思う。(聖カ大 神門絵菜)

## 5. その他

・全体的にみて徳山大の方はとてもよくやってくれたと思う。自分達がこのリーグを気持ち良く終われるのは徳山大とその裏方の方々のおかげです。ありがとうございました。(島根大 折目裕士)

・今回で参加は2回目になるが、今回は人数も増えて、試合も変わった形で行われて2日間にぎやかで楽しく過ごすことができた。また、ディスカッションなど多くのことを学ぶことができ充実した2日間だった。(島根大 神蘭多恵)

・リーゼミに参加したのは初めてだったので、どんなものだろうと思っていただけ、普段では練習できない他大学の人達と練習できたり、交流できていいものだった。（岡理大 川上亜希子）

・他大学のリーダーの人達の剣道を見ることができ、とても勉強になった。私自身は今日の経験をどのようにこれからに生かせるか、まだよくわからないが、他大学のリーダーの良いところを少しでもまねしていきたいと思う。（香川大 竹本由希子）

・このリーゼミで他大学の人と交流が深められ、様々な大学の事を知ることができ、大変ためになる2日間だった。今後は大学のリーダーとして部をひっぱっていき、中四国学生剣道をよりレベルアップできるようにがんばっていきたい。（東亜大 村上聡太）

・ディスカッションで意見を集めたのにそこから案がでなかったのが残念だ。多くの人達の意見を聞いたのだから、それを生かしてよりいい大会にしてほしい。（鳥取大 黒田敏則）

・やはり時間的につまってしまって予定していたようにならなかったことが残念だが、徳山大の皆さんが頑張っていて、本当にすばらしいリーゼミになったと思う。ありがとうございました。（島根大 大辻俊裕）

・今回の参加で3回目となるリーゼミだった。毎年、先生方が頑張っておられ感謝します。しかし、参加人数が多くなったのはいいが、多すぎたのでは。各大学、男女1名ずつの方が人数的に丁度いいと思う。しかし、楽しかった。（鳴教大 東島幸）

・この2日間、勉強になることが多かった。いろいろな人達と知り合いになれて良かったと思う。これからも頑張ろうと思う。（宇部短 松井茜）

・今回のリーゼミは徳山大学さんの準備や運営がとても良かったので充実し、また、楽しかった。（東亜大 鈴木俊孝）

・私達は大学で初めてのリーゼミ参加者でした。まだ同好会で不安もいろいろあった中、期待に胸をふくらませて参加しました。稽古では先輩の胸を借りることができ、夜はいろいろな方と仲良くなれ、とても充実した楽しい2日間でした。（広文教 上田菜保）

・ホテルが豪華で良かった。1人部屋で少し寂しかった。（鳥取大 山脇雅也）

・リーゼミというタイトルどおり、リーダーとは何かをもっと考える機会があれば良かった。（香川大 久保泰博）

・リーゼミを運営された方々は本当に大変だと思った。自分もリーダーとなり後輩らを指揮しなければならず、上に立つもの的大変さを見たような気がした。始め、誰も知らない人達の中で不安でいっぱいだったが、いろいろな人と話ることができ、交流を深めることができた。（聖カ大 神門絵菜）

# リーダーズセミナー in 徳山を終えて

鳴門教育大学

木原資裕

今回のリーゼミにおいては、物心ともに徳山大の榊先生と剣道部の皆さまに、お世話いただき、心より、御礼申し上げます。また、今回より、腰山会長より、リーダー選手権大会の男女の最優秀選手にカップが贈呈されることになり、さらに新しい試みとして男女混合の団体戦を行い、内容のある盛り上がった大会になったことを共に喜びたいと思います。

加盟大学のほとんど（欠席5大学）参加し、参加者数も過去最高となっています。また、今回のリーゼミの課題は、今年五月に開催予定の二部制（ジュニア大会？ピギナー大会？）をどのような参加資格で行うかを決定し、周知させることにありました。

私は、かつて21世紀委員会（中四国学連の将来構想委員会？）へ以下のような意見を提出したことがあります。

## 私の現状認識（木原）

鳴門の学生たちを見てみると、自分たちの実力と旅費等の経費を考慮しつつ出場する大会を選別しているように思う。例えば、西日本大会は出場しないとか、新人戦は人数がそわないので見合わせる。こういった傾向が部員数が少なく部内競争力がない大学では多い。一方、近年、中・四国より全国大会で活躍する大学が出てきたが、冷静に分析すれば、中・四国学連が全体的にレベルが上がったというよりは、特定のスポーツ推薦のある大学に実力のある高校生が入学してきている現状があるように思う。私なりに中・四国学連加盟43大学を40周年記念誌の記述と過去の戦績からみた場合、全国大会で活躍が期待できる大学をA、部員が少なくやっと大会に出場している大学をC、その中間をBとすれば、Aは7大学、Bは16大学、Cは20大学となる（もちろん独断と偏見）。CおよびBのレベルの大学においても、できればAレベルの実力を持ちたいと思っているが、それに伴う時間的・精神的エネルギーおよび自己の就職との関係において、結局は剣道部の活動は現状維持程度に落ち着いているように見える。また、剣道自体のもつ問題として、試合がある程度内容をもってできるまでには、時間がかかり過ぎる点があると思う。当然のこととして大学から剣道を始めた者、高校から剣道を始めた者などは少年剣道から継続してやっけてきている経験年数10年以上の者と互角の勝負ができるはずがない。さらに、誤解を招く表現ではあるが、大学剣道で脚光を浴びているのは、少年剣道から継続して高戦績を残してきている1部のエリートたちだけではないか。

これまでの学連は選手権大会・優勝大会・新人戦の開催とその準備に追われ、チャンピオンシップを目指すAクラスの大学ばかりに焦点が当たっていた観があります。上記のような私の現状認識を大きく変え、これからの学連の在り方を占うイベントに、このリーゼミと二部制の大会実施があるように思います。いわば、Cクラスの大学や個人にも焦点をあてて、育成していこうというものです。

リーゼミは今回で5回目を数え、徐々に充実した企画と運営がなされてきているように思いますし、主管する大学がリーゼミの成功に尽力してくれ、中四国学連の連帯を強めているように感じます。

二部制の大会に関して、私個人としては、参加資格にもっと制限を加え、その条項を明記すべきであるという立場で意見を述べてきました。しかし、結果としては、二部への出場者については各大学の判断に委ねることとなりました。二部制の大会開催の主旨を各大学がしっかりと受け止めてほしいと思います。また、全国に先駆けてこの大会が成功し、中四国学連の発展につながってくることを期待しています。

# 平成9年度中四国学生剣道 リーダーゼミを終えて

香川大学 山神真一

今回、徳山大学にて中四国リーダーゼミが開催された。近年その充実ぶりが目についているが、この度は、総勢で100名前後のリーダーが集い盛大に行われた。ここでは、特に初日に行われた「二部制」に関する討論会について報告したい。

私が司会・進行を仰せつかったが、とにかく全員から意見を聞くことを第一義とした。そして、様々な意見が飛び交う活発なムードが漂った。「ああ、こんなふうに学生諸君は思っているんだ」と何度も考えさせられた。4年間1度も公式試合に出場できないような人達が活躍できる場としての二部制の主旨を全員が理解した上で、できる限り多くの人に参加できるものという条件を考えると、結局、男子は1度でも選手権大会に出場したものは、二部制大会には出場できないが、その他の制約は無しとし、女子については、制約はまったくなく、選手権に出たものでも二部制にもエントリーできるという方向で決着した。5月の選手権と同日に、しかも午前中に行うことも確認された。あとは、いかに参加者を募るかであろう。皆で盛り上げていきたいものである。

大会名も、第一回中四国学生剣道Beginners Cupである。これまでの二部制導入のプロセスは紆余曲折してきたが、評議員の先生方並びに学生諸君の熱心なご支援により、無事開催する運びとなった。開催者の一人として感慨深いものがある。

最後になりましたが、徳山大学の榊先生、そして剣道部の皆さんに心よりお礼を申し上げたい。ありがとうございました。

春5月、松山での大会が待ち遠しく思えてなりません。

平成9年度中四国学生剣道連盟リーダーズセミナーに参加して

島根大学 境 英俊

今回、第1回リーゼミ以来数年ぶりに参加しました。まず今回の主管校である徳山大学の榊先生をはじめ学生の皆さんに、心から厚くお礼申し上げます。また、2日間にわたるセミナー全般について運営を担当された幹事の皆さんのご努力に対して感謝申し上げますと共に、セミナーの成功を喜び合いたいと思います。

今回のセミナーは数校の欠席があったものの、参加者数は前回より倍増し、熱気溢れるものであったように思います。

今回は合同稽古を担当しましたので、それについての感想を述べたいと思います。

セミナーの趣旨の一つでもある学生相互の懇親を深めるため、参加した者全員と一度は竹刀を交えることができるようにと思いましたが、時間と人数の関係上、予定していた全ての内容を消化することはできませんでした。

簡単な準備運動の後、素振りを行い、男女別に打ち返しを行いました。

打ち返しでは、①打ち切ること、②肩・肘・手首の関節を柔らかく使うこと、③足捌き、④呼吸をポイントに行いました。

その後、時間を3分で区切って回り稽古を行いました。上段や二刀の学生もおり、とても充実した稽古であったと思います。しかし、次に行った自由稽古では早々に切り上げ、体育館の隅でたむろしている学生が相当数いたように見受けられました。普段は同じ大学の仲間同志での稽古が主であり、他校の学生との稽古はほとんど無いのが現状だと思います。こういう機会を利用して多くの人とまた様々な剣風と接することは、技術を高めることはもちろん、自分の剣道を見詰めるためにもとても大切なことだと思います。今回参加された皆さんは各大学のリーダーですので、是非今後の稽古のやり方について前向きに考えていただくことを期待しています。

それぞれの大学の意識が高まることが中四国全体のレベルアップのためには必要不可欠だと考えています。

来年以降、このリーダーズセミナーがますます充実・発展することを祈って、今回の反省とします。

## リーダーズセミナーを主管して

徳山大学 榊康守

リーダーズセミナーを終えてホッとする間もなく、本学剣道部は一週間の合宿に入り、只今私は不精髭のまま締め切り迫った原稿に向かっている次第です。

主管校として行き届かなかった点多々あったかと思うのですが、高橋（中四幹事）、白鞘（主務）両名を中心に幹部、部員がよく頑張ってくれたと思います。

主管の話を頂いた時に不安があった事は事実ではありますが、終了迄のプロセスに大いに意義があるものと確信し、お引き受けした次第ですが本当に良かったと思っております。

それは、この合宿中に強く感じているのですが、本学リーダーとなるべき上級生の顔がだんだん「いい顔」になってきていることです。

これもリーダーズセミナーを主管して、日頃しない苦勞を体験した副産物かも？  
セミナー終了時の挨拶でも申しましたが、各大学の剣道部がどういう意識レベルで活動するかはリーダーしだいと云っても過言ではありません。現に道場での稽古ひとつとってみても、主将の号令で（部員はその号令を否定することなく）稽古が展開されているわけですから・・・。

参加された各大学のリーダーの皆さんは、熱血溢れる木原先生、山神先生、境先生のご指導のもと、何かを感じてそれぞれの場に戻って行かれたと思うのですが、それぞれの場において遺憾なくリーダーシップを発揮されることが中四国学生剣道連盟の大きなエネルギーになっていくものと信じております。



## リーダーズセミナーを終えて

企画部長 黒瀬貴博

今回、徳山大学に於いて2日間に渡り開催された平成9年度リーダーズセミナーを終えて、私達は大きな成果と様々な課題を得ました。特に今回は全国初の2部制についての討論という特別な会があったりして多くの収穫がありました。

全体を通してみると、中四国の大学のリーダー達がそれぞれに悩みながら、より強くなろうと日々切磋琢磨していることがうかがえました。この様なリーダー達のいる限り、中四国学生剣道連盟は発展の一途をたどることでしょう。そのパワーで、来る5月10日のBeginners Cupを大成功させてくれることを期待します。この大会については今回も意見が付きませんでした。実際に試してみても新しい問題点が見えてくることと思います。その新たな問題点を更に考慮に入れながら誇るべき初の制度を一緒に確立していきたいと思えます。

最後に、御指導に当たられた諸先生、そして多大な協力をして下さった徳山大学の皆さん、本当に有り難うございました。